

# ～医療業界の専門家が語り合う～ HEALTH CARE 対談

VOL.1 星 旦二 × 石井 貴久

【発行元】

株式会社ガイドドント www.guidedent.co.jp

東京都渋谷区幡ヶ谷 1-34-14 宝ビル 3 階

TEL 03-5790-5260 / FAX 03-5790-5267

GuideDent

【発行日】 2016年 6月 1日

国内唯一のインプラントおよび審美歯科治療の保証会社、株式会社ガイドドントの代表取締役である石井貴久が健康長寿について医療やヘルスケア領域における専門家と語る対談シリーズ。

第1回目は書籍『なぜ「かかりつけ歯科医」のいる人は長寿なのか?』の著者であり、医学博士である星旦二氏にお話しを伺いました。

## 健康長寿のメカニズムを追求

石井： 星先生の著書である『なぜ「かかりつけ歯科医」のいる人は長寿なのか?』を読ませていただきました。興味深いテーマですね。医学博士である先生が歯科医を主軸においてリサーチされた理由をお聞きしたいと思います。

星： 私は長年、健康長寿を実現するための要因を明確化すべく様々な角度から研究してきました。「歯の健康」が関係していることはすでに明らかですので、さらにその理由を深掘りし、**口腔内の健康を維持するためのかかりつけの歯科医を持つことが健康長寿の要因ではないか**、と仮説を立てました。

2001年からこの仮説を実証するために数々の調査をおこないました。同年、(東京都)多摩歯科医師会とおこなった協働調査では、65歳以上の在宅高齢者13,066名を対象にかかりつけ歯科医のいるグループといないグループに分け追跡調査を行ったところ、**かかりつけ歯科医のいるグループは生存率が高く、要介護認定割合が低い**という結果が示されたのです。

石井： 歯科治療の存在が大きいということですね。ところで「かかりつけ歯科医」とは治療のために受診する歯科医院のことでしょうか。それとも口腔ケアを目的に受診することでしょうか。

→ ウラ面に続く

対談者

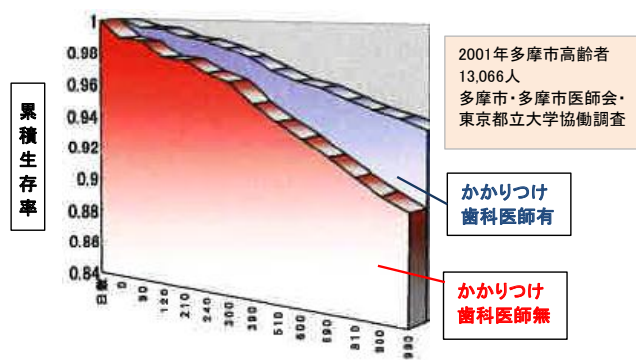
星 旦二 教授

プロフィール

1950年、福島県生まれ。  
首都大学東京・名誉教授 放送大学客員教授  
福島県立医科大学を卒業し、竹田総合病院で臨床研修後に、東京大学で医学博士号を取得。  
東京都衛生局、厚生省国立公衆衛生院、厚生省大臣官房医系技官併任、英国ロンドン大学院留学を経て現職。公衆衛生を主要テーマとして、「健康長寿」に関する研究と主張を続ける。近著に『新しい保健医療福祉制度論』（日本看護協会・2014年）

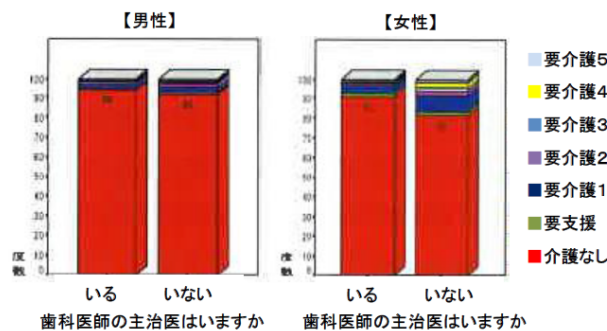


【かかりつけ歯科医師の有無別に見た3年間の累積生存率】



出典:なぜ「かかりつけ歯科医」のいる人は長寿なのか

【かかりつけ歯科医師の有無と3年後の要介護状況】



出典:なぜ「かかりつけ歯科医」のいる人は長寿なのか



代表取締役  
石井 貴久

## 株式会社ガイドドント

国内唯一のインプラントおよび審美歯科治療の保証会社として、約2万人へ歯科治療の長期保証を提供している。2016年3月31日時点で、ガイドドントが認定するインプラントおよび審美歯科治療の認定歯科医療機関数は全国で794施設。患者向けインプラント総合相談窓口の開設、患者対象のインプラント治療とヘルスケアに関するアンケートを実施するなど、患者が安心してインプラント治療を受け、理想的なQOLを手に入れる環境作りを努めている。

【事業内容】

- インプラント10年保証、審美歯科治療5年保証
- その他歯科医療における保証業務
- 患者向けインプラント総合相談窓口業務
- 都民(市民)向け歯科関連フォーラム運営業務
- 広報活動支援事業
- R&D(研究開発)業務

星：その点を明確化するために、2008年の3月と10月に東京都港区芝歯科医師会の協力を得て2,800名を対象とした追跡調査をおこないました。この調査では、痛みや不具合に対処する受診なのか、口腔ケアを目的とした受診なのかという点も調査し、また、歯科医師も参加する形を取りました。その結果、**口腔ケアを定期的に行っているグループは、歯垢や歯石の付着が少なく残存歯\*が多い**ことが明らかになりました。さらに自分が健康だと感じる「主観的健康感」や生活に対する満足感が高い傾向もみられました。

石井：口腔ケアの重要性は歯科医師のみならず私達のような関連企業や、他の領域からも社会に発信していくことが大切だと常々感じています。

## 健康・幸福な人生のために - 私たちのチャレンジ

石井：当社にはインプラント治療を終えた患者さまから、「噛めるようになったおかげで全身まで元気になった」「お口の悩みから解放されてアクティブに過ごせるようになった」などの喜びの声が寄せられています。そこで2015年より研究・リサーチ事業を立ち上げ、インプラント治療と全身の健康およびQOL\*\*の関連性を解明すべく取り組んでいます。自由診療ではデータを集めることが非常に難しいと言われていたのですが、今回は8,192名を対象にアンケートをお送りし、2,712名から回答を得ることができました。現在、歯科系および医科系大学と共同研究をおこなっている段階で、結果は公表し歯科業界や一般の方々に還元したいと考えています。



星：インプラント治療によって口腔機能を取り戻し、QOLが向上していることが明確になれば、歯科医療全般に貴重なデータとなることは間違いありません。

石井：ありがとうございます。まだ分析の途中段階ではありますが、インプラント治療後に定期的にメンテナンスを受けることが習慣化され、口腔ケアの意識が高まったという傾向が出ています。

## 日々の生活を豊かにするゼロ次予防

星：私は**ゼロ次予防**を提唱しているのですが、この言葉をご存知だったでしょうか。「ゼロ次予防」とは健康を考慮した環境を整備することを意味し、例えばアレルギーの予防には、アレルギーの原因となる素材を使わず自然素材を使った住宅作りを啓発しています。口腔ケアに当てはめると、歯科インプラント治療は「ゼロ次予防」だと考えています。

インプラントは噛める基盤を作り、食生活を豊かにします。身体が健康になることで外出の機会が増えた、対人関係が積極的になった、など精神的な面でも良い影響を与えます。まさに「ゼロ次予防」だと言えるでしょう。

石井：インプラントは再び噛めるようになることでQOLが向上し、心身ともに健康な日々を送ることが目的です。この「ゼロ次予防」という考えがびたりとあてはまりますね。

当社がおこなっている調査で立証できれば、健康を守るための手段としてインプラントがより一層、広まっていくのではないかと考えています。

星：口腔内の健康を維持することは心身の健康の源であり、日々の生活の豊かさを高めます。生活の中に口腔ケアが溶け込んでいるような社会になることを願っています。

石井：貴重なお話をお聞きすることができ、多くのことを学ぶ機会となりました。本日はありがとうございました。

\* 残存歯：残っている天然の歯。厚生労働省と日本歯科医師会では8020運動（はちまるにいまるうんどう）を掲げ、80歳で20本以上の歯を残すことを推奨している。

\*\*QOL：Quality of Lifeの略で、「人生・生活の質」と訳され、心身の健康、良好な人間関係、やりがい、住空間、教育など様々な観点から計られる。医療においては、患者の生活機能が保たれ、自分らしい生活が送れるかを意味する。